

1 調査研究の背景・目的

学校では授業や校務でICTを効果的に活用することが求められている。

- (1) 教職員の困りや苦手分野に焦点を当て、克服する手立てを探る。
- (2) 教職員のICT操作スキル向上や授業でのICT活用を進める教職員研修に反映させる。
- (3) 学校の学習端末の使用状況や無線LAN等の通信環境を再調査し、次期端末更新時における課題を明らかにする。

2 調査研究の内容

1 ICT操作スキル向上研修の実施(全16回、延べ受講者数:計 119名)

Word 11名、Excel 40名、Googleドライブ 35名、
iPad 11名、iMovie 7名、Zoom 2名、Windowsフォト13名

○研修評価平均値3.78/4(評価4の割合81.8%)

▲必要なIT用語、名称を覚えていない場合は、集合での研修が必要である。

▲iPad等で動画を撮影することは容易になったが、ファイルサイズの大きい動画を編集しようとし、端末のスペック不足になっている。

▲OS、アプリの更新頻度が高く、研修資料の更新や使用アプリの変更を余儀なくされる。

2 先進地視察

2-1 渋谷区教育委員会～教育データの利活用～

令和4年9月5日開催「文部科学省教育データの利活用に関する有識者会議(第12回)」にて、渋谷区教育委員会「Power BIを活用した学校への効果的な支援」について報告

https://www.mext.go.jp/kaigisiryo/mext_00425.html【資料1-1】渋谷区提出資料

- 学校現場の教育課題・働き方を変える事項を明確にし、区のミッションとしてそれを組織的に位置づける。
- ミッションを事業化・予算化し、ICTにより教育課題を視覚化して、学校現場の働き方改革を進める。

2-2 横浜市教育委員会～研修管理システムの運用～

令和4年3月14日開催「九州教員研修支援ネットワーク第2回協議会」にて、「自ら学び続ける教職員を育成する人材育成システム～セルフマネジメントへの挑戦～」について報告

- 4月の目標管理面談時に、研修計画の面談を実施している。それまでに、各自の教員育成指標の到達度(自己評価)を入力する。
- 横浜市全職員の評価平均値と合わせてレーダーチャートとして表示され、各自の評価と比較してメタ認知できる。
- データ集計は、研修管理システムの管理者が学校単位、採用年度単位、研修実施年度単位でExcelによる手動集計・分析の後、指導主事の学校訪問の資料として活用する。

校長等の指導助言等を受けて、どのような手続きで研修受講申込みをするかをシステム整備することや研修体系にオンデマンド研修を新設することなど、教師の新たな学びに対応する次年度研修構築につながった。

3 次年度調査研究(3年次)の計画

○令和5年度 テーマ別研修「ICT操作スキル向上研修」の実施

No.	研修名
1	Word初級
2	Excel上級_VBA(プログラミング)
3	Googleドライブ初級_ペーパーレス・アンケート・小テスト作成
4	Excel初級～Googleスプレッドシートで演習
5	iPad初級
6	iMovie初級

→受講後の活用状況、ICT化に伴う負担減等について、調査しまとめる。

○次年度は、3年間でICT活用がどのような変化を遂げたのか、教職員のICT端末活用状況や通信機器の現状をまとめるため、市町村教育委員会に聞き取り調査を実施する予定。